

No. J2308 「対立を避ける思考」 ——インド・シッキム州における宗教的混淆の社会人類学的研究
東京都立大学大学院 人文科学研究科 社会人類学分野 博士後期課程 山岸 哲也
本研究は、インド・シッキム州において異なる宗教を信仰する人々に関して、彼らの混淆的な宗教実践がどのように共存という内的平衡をもたらしているのかについて、現地調査をもとに考察することを目的としていた。さらに、様々な背景を持つ人々が対立のきっかけともなる差異を抱えつつも均衡的に集住している様相から、当該地域で独自に醸成されてきた「対立を避ける思考」を明らかにすると同時に、それがグローバルかつ権威的な宗教によって「上から」包摂されるなかでどのように発現しているのかを描き出すことを目指していた。それを通じて、当該地域の混淆的な宗教と人々の内的平衡の関係性を明らかにすることを試みている。 本研究は2年間の計画である。初年度である2023年度は、4月1日から研究対象地域であるインド・シッキム州に滞在し、翌2024年3月末まで現地に滞在の上で長期調査を実施した。 2023年度の研究では、主に調査対象地域であるシッキム州全体においてどのような宗教実践が展開されているのか、特定の村落地域においてどのようなシンクレティックな宗教実践があるのか、そしてそのような場において異なる宗教の信仰者や異なる民族がどのような関係にあるのかについて、現地に住み込んでインタビューや観察・記録などによって調査を進めた。その結果、州全体では大宗教である仏教とヒンドゥー教、キリスト教、さらにイスラームがアイデンティティ・ポリティクスと関わりつつ展開していること、その一方で村落地域では様々な土着の宗教が混淆しながら実用主義的に実践されていることがわかった。さらに村落地域では、異なる宗教者たちが自分の信仰を越えるような形で、互いに協働して儀礼を執り行っていることも聞き取った。